

概要

- 提案課題名 「女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築」
- 総括責任者名 「柴田 文明」(2007年1月6日付)
- 提案機関名 「お茶の水女子大学」



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

機関の現状

- (1)教職員の女性比率：管理職 37.2%、教授・助教授・講師 39.7%、全教員（含附属学校園）48.0%、事務職員 34.6%。
今後の見通し：講師以上の女性教員の比率を50%に近づけたい。学位・業績・能力等が均等の場合は、女性採用を優先するという原則を継続する。女性の役職への登用を促進する。
- (2)現在の取組：
- (a)「教員人事では学位・業績・能力等が均等な場合には女性の採用を優先する」が全学的な了解事項。21世紀COE拠点「誕生から死までの人間発達科学」と「ジェンダー研究のフロンティア」において女性研究者を積極的に育成。
 - (b)「魅力ある大学院教育イニシアティブ」として「＜対話と深化＞の次世代女性リーダーの育成」と「生命情報学を使いこなせる女性人材の育成」を実施し、当該分野の若い女性研究者を育成中。**学内保育所を学長裁量経費で設置、大学院生に対し、保育料の半額を奨学金として返還する制度を実施。**
 - (c)育児休業を取らない教員に対し、授業の代替措置を含む職務軽減措置を実施。セクハラ等人権侵害防止対策を強化し、女性研究者の研究環境を整備。

計画構想

女性研究者を支援するために、次の3つの計画を実施する。

計画(1) 女性研究者を取り巻く質的・量的環境の整備：

- a) 女性研究者支援メニューの提供
- b) 勤務時間9時から5時の徹底化
- c) 学内保育所と隣接する独身寮の連携による支援

計画(2) 女性研究者支援のための情報環境の整備：

女性研究者支援「情報バンク」の設置

計画(3) 女性研究者育成のための人的交流：

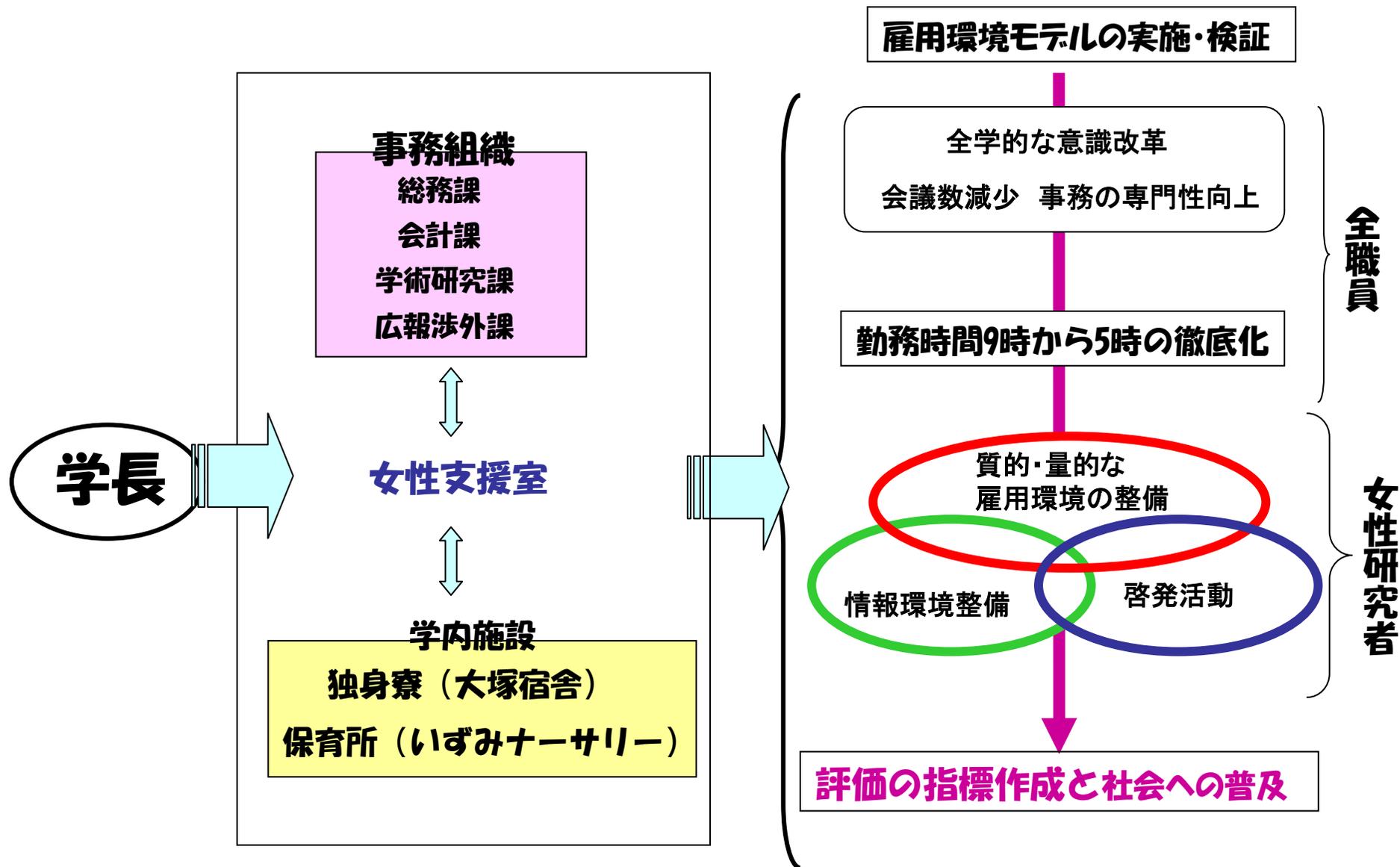
ロールモデルによる理工農系を目指す若い女性研究者の啓発及び活動のDVD化

達成目標（ミッションステートメント）

お茶の水女子大学の「女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築」が目指すもの

- (1) 「勤務時間9時から5時の徹底化」によって、「仕事と家庭」を両立させる21世紀型ライフスタイルの実践例を示す。
- (2) 女性研究者のための「3つの支援」（支援メニュー・学内保育所と隣接する寮の連携による支援・情報バンクの設置）と「意識改革の試み」に対する有効性と実行可能性を検証し、他研究機関へ波及させる。
- (3) 「ロールモデルによる若い理工農系女子学生の啓発活動」とロールモデルのDVD化によって、理工農を志す女性を増やし、社会の認識と理解を高める。

実施体制



雇用環境モデルの実施・検証



学長の強いリーダーシップ

全学的な意識改革
会議数減少 事務の専門性向上

勤務時間9時から5時の徹底化



多様な女性研究者
支援メニューの提供

質的・量的な
雇用環境の整備

学内の保育所と隣接する独身寮
による女子研究者支援

女性研究者支援
情報バンクを設置

情報環境整備

啓発活動

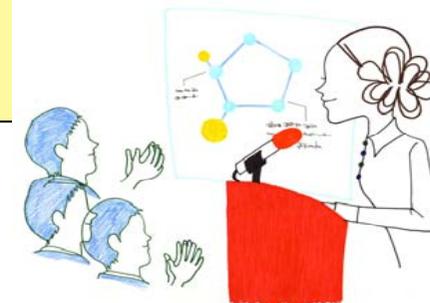
女性研究者の
諸活動をDVD化

研究支援コンシェルジュ
の養成・活用

ロールモデルによる
若い女性への啓発活動

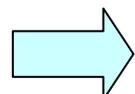


評価の指標作成と社会への普及



「女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築」が目指すもの

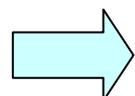
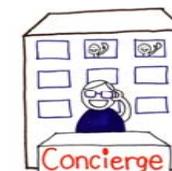
(1)「勤務時間9時から5時の徹底化」



「仕事と家庭」を両立させる 21世紀のライフスタイルの実践例を示す。

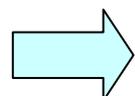
(2)女性研究者のための3つの支援と意識改革の試み

「支援メニュー」・「学内保育所と隣接する寮の連携による支援」・「情報バンク」



有効性と実行可能性を検証し、他研究機関へ波及させる。

(3)「ロールモデルによる若い理工農系女子学生の啓発活動」と
ロールモデルのDVD化



理工農を志す女性を増やし、社会の認識と理解を高める。

